

授業概要

2025 年現在、世界人口のうち、半数以上の約 40 億人もの人々が 1 人当たり年間所得 3000 ドル未満（日本円で約 4 万円）で暮らしており、貧困層として位置づけられる。貧困は所得のみでは計ることができず、教育や保健・衛生面などが大きく関わっていることから深刻な問題となっている。

発展途上国論は、人々の生活水準を向上させるためにさまざまな開発ニーズ、例えば雇用、教育、環境および食糧など発展途上国で行われる開発を含む多面的・多元的な学問領域と言える。

本授業では、発展途上国への開発を推し進めてゆく上での課題を社会開発の観点から考え、途上国に対する学生の関心に応えつつ、考える力を引き出す開発経済学の基本理論を講義する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第 2 回	地域研究とグローバル・サウスについて講義する。
第 3 回	地域研究のアプローチについて講義する。
第 4 回	グローバル・サウスと「途上国」について講義する。
第 5 回	貧困の系譜と地域研究について講義する。
第 6 回	貧困削減の機会か？土地収奪か？について講義する。
第 7 回	ドイツにおける難民問題について講義する。
第 8 回	「移民問題」「難民問題」の起源について講義する。
第 9 回	北の大地のベトナム人について講義する。
第 10 回	紛争とはどんなものだろうかについて講義する。
第 11 回	実態と虚構のはざまを生きる南スーダンについて講義する。
第 12 回	グローバル・サウスとしての沖縄について講義する。
第 13 回	グローバル・サウスと開発援助について講義する。
第 14 回	地域研究をジェンダー化する試みについて講義する。
第 15 回	グローバルゼーション時代の地域研究について講義する。

到達目標

途上国での出来事に対する具体的な問題設定や調査の実践方法を示すことができる。
 今日本にいる自分たちと途上国での出来事とがどのように結びついているかについて考えることができる。
 その視点と具体的な方法を提示することができる。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識し、途上国の経済実態や課題について質問や議論に積極的に取り組んでほしい。レポート提出の際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・WEB サイトの途上国経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

学期末レポート 70%、授業内レポート 20%、受講態度 10%。

テキスト

- ・教科書名：『地域研究へのアプローチ—グローバル・サウスから読み解く世界情勢』
- ・著者名：児玉谷史朗/佐藤章/嶋田晴行
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年 (ISBN)：978-4-623-09093-8